

四五) ↓上赤倉沢(仮称)下降終

了(一一:四〇)

赤倉沢

一九八四年七月二日

上赤倉沢(仮称)出合から、今はすっかり荒れてしまった踏跡をたどって手沢支流の赤倉沢出合へ。

この踏跡はかつて鉱山事業が盛んに行われていた時のものという。茂庭には多数の金や銀を掘る小規模な鉱山が存在していた。

一一時五五分、赤倉沢出合から遡行開始。はじめから水量が少なく、

大きな期待はかけられそうにない感じであった。そして遡行開始直後に左に支流を分けてからは水量はさらに減り、一



上赤倉沢の下降

大きな期待はかけられそうにない感じであった。そして遡行開始直後に左に支流を分けてからは水量はさらに減り、一

は程の小滝二つを見ただけで源流に達してしまった。

水も濁れなおも進むと、鉱山のズリ石を堆積した所があり、そこまで遡って引き返す。

赤倉沢には古い板きれが多数散らばっていた。坑道跡はみあたらなかったが、ズリ石を堆積した所もあり、かつての鉱山の名残であろう。

(記)

「タイム」 赤倉沢出合(一一:五五)

↓遡行終了(一一:二五)

